

進路のしおり

～未来に向かって～

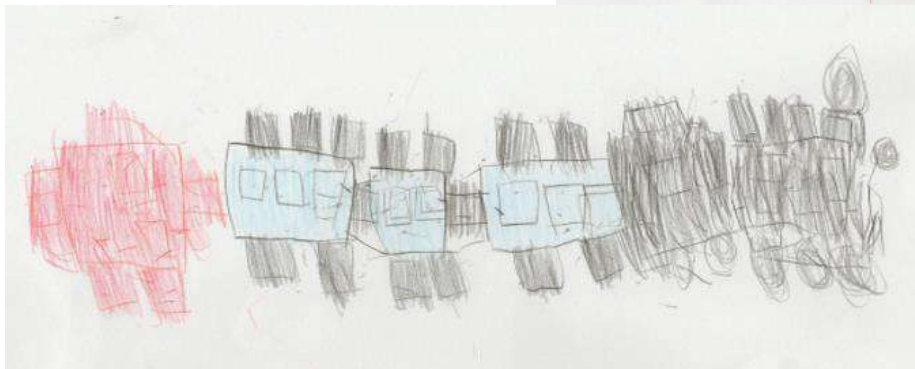
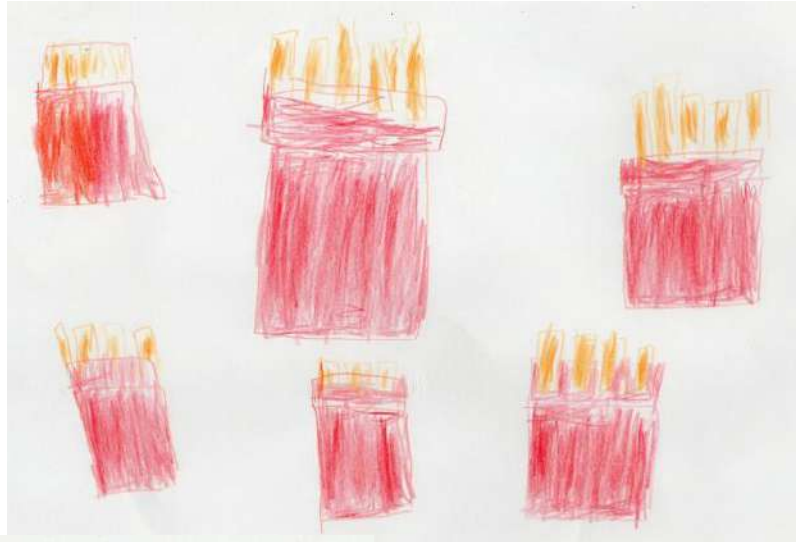
「僕の好物」

高等部1年

尾本 響さん

(埼玉県立越谷特別支援学校)

「アトリエ・アンノウンでの実習の際に、リアルなポテトを想像して描きました。」



「カッコいい大樹」

高等部1年

國分 遙登さん

(埼玉県立越谷特別支援学校)

「アトリエ・アンノウンでの実習の際に、夏休みに見た大樹(東武鉄道SL大樹)をカッコよく描きました。」

<目次>

特別支援学校における進路指導の考え方 P.1~P.3

～小学部から、それぞれのステージでできること～

施設紹介1 P.4~P.10

～最も弱いものをひとりももれなく守る～ P.11~P.12

埼玉県重症心身障害児(者)を守る会

命あるパートナーとの生活 P.13~P.14

～「介助犬」という選択～

施設紹介2 P.15~P.17

用語解説 P.18

この冊子は、県内の肢体不自由特別支援関係校が集まって、毎年編集発行されているものです。小学部に入学をし、高等部を卒業するまでの12冊の冊子をご覧になって、日々の、あるいは将来の豊かな生活を送っていただくよう願っております。

- 埼玉県高等学校進路指導研究会特別支援教育部肢体不自由特別支援学校小委員会
- 埼玉県肢体不自由特別支援学校進路指導研究会 ● 埼玉県特別支援学校校長会

特別支援学校における進路指導の考え方

～小学部から、それぞれのステージでできること～

埼玉県立蓮田特別支援学校 進路指導主事 島村 隆博

<小学部低学年における進路指導>

「まずは学校に少しずつ慣れてください。」
……本校小1の保護者の方々には、そうお伝えしております。

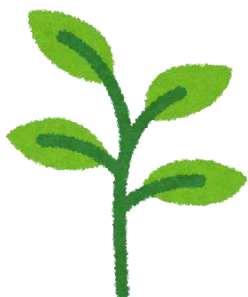
ただ、少しでもご家庭で困っている状況があるなら、**早めにSOSを出して、地域に“応援者”を作っておくこと**をお勧めします。地域にお子さんのことを知ってもらい、保護者や担任の先生以外の大人と関わり、家庭や学校以外の場所に身を置くことが**“その子なりの自立”**につながります。



就学前の施設でそうした相談支援を受けていけばいいですが、そうでなければ、福祉サービスの利用に限らず、市町村の福祉課やこども支援課、障害者生活支援センター等相談支援の窓口にお問い合わせしてみてください。本校では、保護者の方々に窓口でこう伝えてくださいと言っています。

「今困ってなくても、いざ困ったときに慌てないように、また子どもの自立に向けても、早めに福祉サービスの利用を検討してみてください。」
と学校の進路主事に言われたと。

小2、小3と学年が進むにつれ、教育支援プランや個別面談の中で、担任から、「お子さんのどんな力を育てたいですか？」
「授業（自立活動）でどんなことを目標にしますか？」と聞かれるようになります。……そこで私はこう考えます。



「その子が家庭や地域で生き生きと豊かに過ごすためには、学校（授業）でどんな力を身に付けられればいいか。」

<小学部高学年における進路指導>

家庭や地域で生き生きと豊かに過ごすために……ある福祉業界の方によれば、学校（特別支援）に通うのは長い人生のたった12年間、しかも1年のうち1/3は長期休暇、1日24hのうち学校にいるのはせいぜい6h……つまり**生活のほとんどは下校後や休日**で、そうした家庭や地域生活がそのままずっと先の高等部卒業後の進路や生活につながっているのです。



小高から中学部にかけては、進路指導的には“中だるみ”の時期のように見受けられます。一方授業での子供たちの変化は目覚ましいものがあり、「あんなことができるようになった。」「こんな様子も見られるようになった。」とまるで別人のように成長していきます。なのに、中学部を卒業して高等部に入った途端、卒業後の進路先探しに慌てふためく……

そんなことがないように、以下のことを、是非担任と情報を共有し、中学部へと進路指導をつなげてください。

- 家庭で一人で楽しめる活動
- 家庭での役割
- 地域で参加できる楽しい場所
- 保護者が困ったときに助けてくれる人
- ……特に後半の二つ

は、“**地域デビュー**”と呼んでいます。遠い将来のことをあれこれ心配するのではなく、「**今現在**」を大切に、そうした一日一日を卒業後にに向けて積み重ねていく。

“散歩”からでも“笑顔係”でも、できることから始めてください。



進路指導には、「**出口指導**」と「**入口指導**」とがあるとされます。言い方を変えると、「**卒業後の行き先探し**」と今現在から生涯にわたる「**生き方探し**」とも言えます。

高等部では卒業後の進路決定に向けた「行き先探し」、

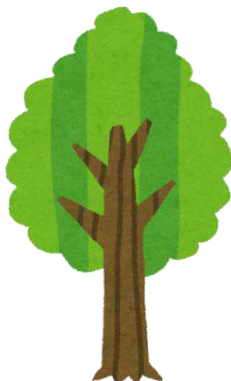
小学部では今現在の家庭や地域生活における「生き方探し」に比重を置き、

中学部ではその移行期というスタンスで原稿を書かせていただきました。

< 中学部における進路指導 >

さて、小学部の6年間で培ってきた、家庭や地域生活の“基礎”を高等部卒業後の行き先探しに向けて“つなぐ”3年間です。

とはいえ、子どもたちは“**思春期**”に入り身体も心も急激に変化し、また保護者も“**高等部**”が近づくにつれ、“**不安定**”な時期とも言えます。

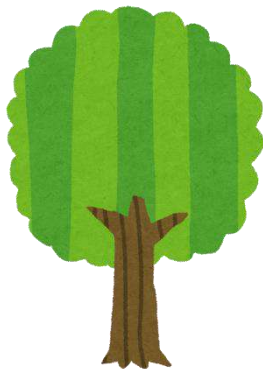


この時期に一番大切なことは、とにかく“**情報収集**”だと考えます。お子さんが、「**家庭や地域で、どんなことができているのか、何が楽しめているのか。**」

「**高等部の先輩たちは、卒業後どんなところに進んでいるのか。**」

「**今現在、地域にどんな資源があるのか、あるいはまだないのか。**」

・・・高等部では卒業が目の前ですから、現実的に進路を考えるしかありません。なければあきらめ、あるものを利用するしかありません。ある意味、“**妥協**”や“**運**”に任せる必要も出てきます。しかし、**他の地域と比べたり、卒業後の進路希望を幅広く考えてみたり、「もう少しこんなことができたらいいな。」**と目標を設定できるのもこの時期です。



また、卒業後を見据えて、**ショートステイや移動支援、居宅介護のお試し利用や公共の交通機関や施設の利用、職場見学や大学見学**など社会性を身に付ける取り組みも担任と相談し、授業（自立活動等）と結び付けながら行えるといいですね。

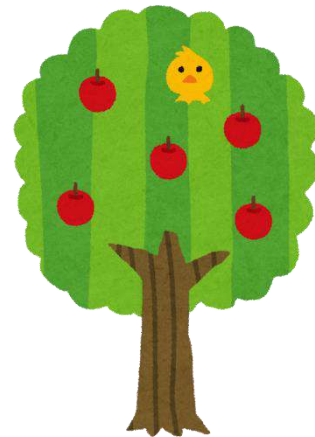
< 高等部における進路指導 >

と、ここまでくればもう高等部でやることは一つです。いままでの進路指導の土台の上で“**卒業後の行き先探し**”になります。

できないことをできるようにする必要はありません。今持っている力を卒業後にどう生かせるかを担任と一緒に考えましょう。

特別支援学校の卒業生は、その大半が生涯にわたって福祉サービスを利用して生活していくことになります。しかし、進路先が福祉サービス事業所ではない場合、つまり“**進学**”や“**企業就職**”の場合には、“**特別な支援**”はないのが普通です。つまり、**今までいかに社会経験を積んできたかがポイント**になります。卒業後いきなり社会（大海原）に飛び込んで茫然とすることないよう、高等部3年間で心構えを作っていきます。

さて、福祉サービス事業所を利用するケースです。お子さんと事業所との**マッチング**、ご家庭と事業所との**条件（ニーズ）のすり合わせ**、“**産業現場等における実習**”等の活用、**18歳でのサービスや医療等の切り替え**、卒業後の生活、**親なきあと**……具体的には各校の**進路指導主事**、“**進路のしおり**”**バックナンバー**（特別号にて紹介）にお任せします。



ただ、最後の最後まであきらめないでください！（**行政、相談機関、事業へ**）**要望はダメもとでも必ず口に出しましょう。**○か×かではなく、**可能性の糸**を紡ぎましょう。来年、数年後と状況は変わっていきます。

……「**未来に向かって!**」ください。

「卒業後の行き先探し」のノウハウ……

進路のしおり前号（特別号）「進路のしおりの歴史」の記事はご覧いただけましたか？

実は、全27号にすべて詰まっています！

「就職・進学・訓練施設」「福祉制度」「支援・サービス」「生活・余暇・スポーツ」「施設紹介」……

進学（入試）、就職（入社試験）の合格や福祉施設（内定）については、**それぞれの how to** があります。そこは各校の担任や進路担当の先生方におまかし、ここでは、私自身が10年間の進路指導主事としての経験から感じてきたことを述べさせていただきます。



「卒業後の行き先探し」とは言いますが、とりえず「卒業後3年間」くらいの目安で気軽に考えてみたらどうでしょう。

＜進学＞は、学んだ先の進路があります。

＜就職＞は3年後からの職場定着に、登録した就労支援センターが力を入れています。また、最近では、新卒者（高等部3年生）ではなく、既卒者（社会人経験者）の採用のみ募集している企業が多いです。つまり、転職の道だってあります。

＜福祉施設＞では、定期的（3か月毎が一般的）に相談専門員が**サービス等利用計画*1**を見直してくれます。また、3年くらいすると、生活環境が変化したり、条件の良い新しい施設ができたりするかもしれません。



次にそれぞれの行き先探しで留意していただきたいことです。

＜進学＞学校見学や何を学びたいのか（社会経験）が必須です。**オープンキャンパス*2**だけでなく、ふらっと公園にでも行くつもりで学食で食事して帰ってきたらどうでしょう。近所のおじさん達の散歩もよく見かけます。また、受験方法が「**一般受験**」なら外部模試等とにかく学力勝負、「**AO入試*3**」なら日常の成績、小論・面接に対応する社会性が必要になります。

＜就職＞「通勤」なら**自力通学**（雨の日も風の日も……）、少なくとも公共の交通機関で一人で行ったときの経験こそが宝。「**在宅就労**」なら最低限PCは使いこなせるように、できれば**MOS*4**や**ITパスポート*5**等資格を取っておきましょう。でも、企業の方々には口をそろえて、必要要な力は、「**社会性**」と「**自らSOSを出すこと**」とおっしゃいます。

＜福祉施設＞「うちの子にとってどの事業所がふさわしいのか」……ピッタリ条件のあった事業所があればラッキー、ないのが普通です。そこで重要になるのが“**実習**”です。高1では「**ここが合っているかも**」と思う事業所にまずは顔を売り、高2では「**ここは確実**」「**ここはチャレンジ**」……つまり高1高2あたりを付けておいて、高3になったら第1希望の事業所から、内定をもらえるまで続ける……

しかし、本校の場合は、**活動内容**だけでなく、**送迎**や**入浴サービス**等保護者の必要とする条件も大きな決定要因の一つのようです。

また、ここは〇〇はいいけど〇〇がない……と**すぐにあきらめてしまうのは考えもの**です。事業所がないサービスを別の福祉サービスで補ったり、施設の併用利用、たまたま高3の時点で次年度新しい施設が開所になったという例も最近では増えています。

18歳でのサービスの切り替え、卒業後の医療機関、移行支援会議、アフターケア、年金や手当、親なきあと等の卒業後の情報収集も高2の時点ですておくとよいでしょう。



まだまだお伝えしたいことはありそうですが、それは、各校の進路担当や今後の進路のしおりに託すことにいたします。

……**これからの未来に期待して。**

障害福祉サービス事業所「てとて」



「てとて」は埼玉県の東南に位置し、
越谷市や川口市等に隣接しています

2 近隣特別支援学校までの距離

- ①さくら草特別支援学校（肢体） 1.9 km
- ②ひまわり特別支援学校（肢体） 11.0 km
- ③越谷特別支援学校（肢体） 15.0 km
- ④和光特別支援学校（肢体） 18.0 km
- ⑤蓮田特別支援学校（肢体） 20.0 km
- ⑥宮代特別支援学校（肢体） 20.0 km
- ⑦川島ひばりが丘特別支援学校（肢体） 25.0 km

1 「てとて」基本情報 <2021.10.6現在>

住 所：さいたま市緑区三室1431
 電 話：048-829-9422
 施設長名：内田富士夫（法人理事長） サービス管理責任者：遠藤陽子
 開所日：2020年4月1日
 事業内容：生活介護 定員20名
 短期入所 定員 2名/1日
 主たる対象者：手帳をお持ちの方（医療的ケアを要する方、
強度行動障害の方を受入れています）
 支援体制：サービス管理責任者：1名、
 生活支援員：利用者1.7人に対して1名配置、
 非常勤看護師：3名
 営業日時：月～金 9:00～16:00

3 社会福祉法人「久美愛園」の理念

「共に支え合う暮らしの創造」を理念としています。「てとて」という名称は、地域の人々と手をつなぐ、心をつなぐ、そんな共生社会を創造したいという職員の思いからつけられました。

4 社会福祉法人「久美愛園」88年の歩み

- 1933年：笠井福松夫妻が東京都足立区南鹿浜町に結核者及び精神薄弱者のコロニー「江北農園」を創設
- 1937年：現在地（緑区三室143）に移住し、「久美愛園」と改称
- 1949年：児童福祉法施行に伴い、児者分離の行政指導に基づき、久美愛園併設の任意成人施設「恵寮」を設置
- 1952年：社会福祉法人「久美愛園」として厚生大臣の許可を得る
- 1967年：精神薄弱者福祉法第19条による更生施設「恵寮」として厚生大臣の許可を得る
- 1977年：児童施設「久美愛園」から精神薄弱児施設「久美学園」に改称
- 1998年：グループホーム「久美ホーム・めぐみホーム」開所
- 2003年：知的障害者更生施設「互助の里」（定員50名）開所、更生施設「恵寮」を更生施設「めぐみ園」と改称
- 2008年：「久美ホーム・めぐみホーム」を*④「久美彩ホーム」に改称
- 2009年：「めぐみ園」新園舎完成、更生施設「めぐみ園」から*②障害者支援施設「めぐみ園」に改称
 更生施設「互助の里」から*③障害者支援施設「互助の里」に改称
- 2012年：児童福祉法改正に伴い、知的障害児施設「久美学園」から*①障害児入所施設「久美学園」に改称
 久美学園新園舎完成
- 2014年：互助の里新作業棟完成
- 2015年：*⑥相談支援事業所「ぶどうの木」開所
- 2018年：公益事業（生活困窮者支援）「彩の国あんしんセーフティーネット*⑥」加盟
- 2020年：*⑥居宅介護事業所「ぼれぼれ」開所
 障害福祉サービス事業所「てとて」開所

<法人が運営する事業> *①福祉型障害児入所施設「久美学園」入所支援（定員30名）、短期入所（12名）*②障害者支援施設「めぐみ園」施設入所支援（定員50名）、生活介護（定員60名）、短期入所（定員5名）*③障害者支援施設「互助の里」施設入所支援（定員40名）、生活介護（定員60名）、短期入所（定員4名）*④共同生活援助「久美彩ホーム」（定員41名）*⑤相談支援事業所「ぶどうの木」特定相談支援事業、障害児相談支援 *⑥居宅介護事業所「ぼれぼれ」居宅介護、行動援護、重度訪問看護、移動支援

5 「てとて」(生活介護 定員 20名)の利用状況 <2021.10.1 現在>

- 契約者数：31名 (1日平均利用者 21~24名、併用利用者6名)
- 障害支援区分：区分3(2名)、区分4(7名)、区分5(10名)、区分6(12名)
- 医療的ケアを要する方：3名 (1名は3つの医療的ケアを実施しています)
吸引：1名、胃ろう：1名、経管栄養注入：1名、人工呼吸器装着：1名、インスリン投与：1名

強度行動障害の方は個に適した環境・プログラムを提供します



多目的のトイレにベッドを設置し、おむつ交換します



2階建
エレベーター完備です



小上がりの和室で、リハビリや休憩ができます



機械浴を導入し、専用車いすで入浴できます



6 質問に対する回答 サービス管理責任者の遠藤様より

Q1：初めて医療的ケアを要する方を受入れる生活介護事業所を設立した理由？

A1：この地域に医療的ケアを要する方を受入れられる生活介護事業所が少なかったこと、社会福祉法人の責務であると考えたからです。

現理事長や現看護師の熱い思いも大きな原動力となりました。当事業所では受入先が少ない強度行動障害の方の受入れも行っております。

Q2：医療的ケアを要する方を受入れる事業所を設立する上で困ったこと？

A2：初めてのことで医療的ケアが何であるかもわからないところからのスタートでした。医療的ケアの先駆者である「デイセンターさくら草」、「ぼとふ館」、に多くの事を教えて頂きました。事業所間の横のつながりがなければ当事業所を開所することができなかつたと思います。また、医療的ケアを実施する上で県等への提出書類や作成すべきマニュアルが大変多いことにも驚きました。

Q3：医療的ケアを要する方の受入れ方について？

A3：今年度、特別支援学校の新卒者で、人工呼吸器装着、胃ろう、吸引を要する方を受入れるに当たり、実習の段階から看護師が保護者に多くの事を確認させて頂きました。卒業後の4月~6月までは保護者に同伴頂き、7月頃から保護者と事業所で判断をして、ご本人のみで登所されています。当事業所では、医療的ケア等特段の配慮を要する方の進路希望情報を早く頂けた方が、受入れるための準備ができるのでありがたいです。

Q4：当事業所が不十分と感じているサービスは？

A4：当事業所では、短期入所サービス(2名/1日)を行っていますが、現状、医療的ケアを要する方の受入れは準備が整っていないため行っていません。また、重度訪問介護サービスも現状では整っておりません。不十分な部分を補い保護者も安心してお仕事できるよう、生活介護サービス時間の延長も検討しています。

Q5：利用者の食形態や送迎について？

A5：当事業所ではペースト食に対応できていない(個に合わせることが困難)ので、御自宅から持参頂いております。業者と提携しており、普通食やムース食は提供できます。今後は、様々な食形態に対応できるよう準備をしている段階です。また、送迎は片道30分を目安に実施しています。送迎区域は緑区、浦和区、見沼区、中央区全域、南区一部です。医療的ケアを要する方の送迎は看護師も同乗し、運転手と2名体制で行っています。

Q6：利用希望者が今後定員をオーバーすると思いますか？

A6：開所1年で利用契約者31名、一日平均21~24名の利用となっています。今は定員20名ですが、今後は地域のニーズによって定員変更も検討していきます。特別支援学校から早く進路希望情報を頂けると受入れるための準備ができるので有難いです。

(文責：堀)

【令和2年度入所・女性利用者さんの保護者の声】

高3の2月末に、てとてを紹介されました。その時点で決まっていた娘の進路先は週一母子通所で、親の付き添いは「半年になるか、一年になるかわからない」と言われ、暗に「在宅しなさい」ということかな？と思っていたころでした。

娘はⅠ型糖尿病があり昼食時のケアが問題でしたので、実習のたびに説明をして、6月の実習後、週5確定で大丈夫と思っていたので、11月の面談で週1と聞いたときは落胆しました。

そんなときのととてでした。春開所なので卒業までは見学実習もなく（すぐ卒業でしたので）4月に見学、コロナの事もあり6・7月に体験をし8月に契約しました。はじめ知的さんがふらふらしている事、娘が話せないのが心配でしたが、食事中痛そうな顔をすれば（側弯症もあります）中断し横にして落ち着いてから再開をすとか、絵本を見たい、散歩に行きたいなど、介助員さん、看護師さん（3人います）がいつも娘の表情・意思表示をくみ取ってくれて安心しました。

お風呂は機械浴で週2回、トイレは広く寝返りしても落ちないようにベッドがドンと置いてあるのには驚きました。



【令和3年度入所・男性利用者さんの保護者の声】

進路先は、子供が人工呼吸器使用だったので、受け入れ可能な施設さんを探す事から始めました。その中で、自宅から通えそうな施設さんで実習をさせて頂きました。特に高等部になってからの実習では、お客さんとしての扱いでは無く、実際に利用者として通所するようになったと仮定して、1日の生活をより実践的に実習して貰えるようお願いしました。その中から子供にとって過ごしやすいと感じた施設さんを幾つか選び、悩んだ末、最終的に自宅から近い“てとて”さんに決めさせて頂きました。入所後は、保護者待機となり、待機中に子供にとって危険な事や必要な医ケア等を職員の皆さんに詳しく伝え、看護師さんが「大丈夫です」となった7月1日から待機を外れる事になりました。具体的な施設の選び方は、1.子供にとって過ごしやすい（サポート体制、楽しい等）2.近い（送迎有無関係なく）を重視しました。また学校とは別に、個人的に施設さんへ行って色々とお話を聞くのも重要かもしれません。



【令和3年度入所・女性利用者さんの保護者の声】



12年間お世話になった特別支援学校を卒業し、4月から「てとて」をメインに他施設を不定期利用しています。

進路先を決めるまで、施設見学や実習を多く重ねました。それぞれに良い所があり行けば行くほど迷いましたが、医療的ケアの実施、送迎可の中から自宅に近い「てとて」と他施設を選びました。「てとて」を選んだ他の理由に、新しい施設ではあるものの母体の久美愛園は歴史があり安心感がある、イベントや活動など本人が楽しめそう、そして何よりスタッフの皆さんや利用者さんの雰囲気明るく、丁寧に接して下さる所です。本人も今ではすっかり慣れ、充実した毎日を過ごしています。今後は、入所も可能なショートステイを探していく予定です。

（文責：千々和）

” やりたいことが仕事になる事業所”

就労継続支援B型事業所 **アトリエ・アンヌン**

埼玉県越谷市大字南荻島 1023番地 1-1階

TEL:048-940-7318 fax:048-940-7319 <文責:倉持通子>



アトリエ・アンヌン (atelier announ★) は、一步施設に入ると明るい美術館ロビーの様でした。利用者の方(以下:アーティスト)の靴入れの名前もご本人の原画を使用。工房へ続く扉も、アーティストの絵が使用、デザインされたものでした。(⇒右側写真)

「働く環境を作る」「やれる可能性を最大限に生かしたい」と代表取締役の澤本様のお話を伺いながら施設を紹介していただきました。



施設概要 2020年4月OPEN 建物1階



作業スペースは50坪のアトリエで完全バリアフリー仕様になっています。ユニバーサルシート付車椅子専用トイレ完備。ゆとりのあるスペースで車いすの方も日常生活の移動、洗面等利用しやすいよう考えられたアトリエです。食堂も車いすが入るテーブルです。全障がいを受け入れ「絵を描くことが好き」な障がい者が、アーティストとして現在は21名(定員40名)9:00~16:00まで働いています。建物の2階は、別の生活介護事業所が入っていて、2階の事業所の方も余暇時間に1階(アンヌン)へ来る方もいます。埼玉県浦和に2号店を建設中。2022年4月開設予定です



☆就労継続支援B型事業所がアトリエになる☆

就労継続支援B型事業所がアトリエとして活躍の場となり、絵を描くことが好きなアーティストが絵画をデザイン会社ANNOUNに提供し、ANNOUNデザインを加え商品化し売り上げから工賃[※]を生み出しています。工賃も最低工賃保証20,000円/月。絵が販売されれば賞与(特別工賃)もあります。画材も自由で絵の具、色鉛筆、クレヨン等々アーティストの方により様々です。絵画は、企業に販売され、有名企業の看板製作にも使われています。絵を描く事(やりたいこと)が仕事になることで、アーティストの方々もアーティストとしての気持ちがさらに育ち、制作される絵が上手に表現されようになるそうです。



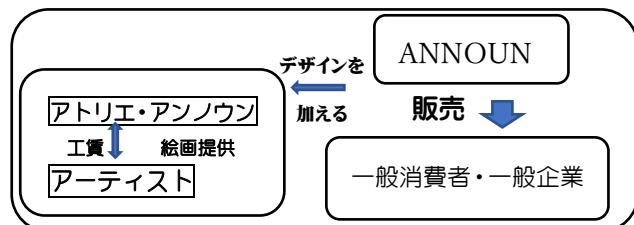
また、コロナ禍の中、10月から家庭でアンヌンの仕事の様子を見ることができるようライブ放映も行っています。テレワーク支援(在宅支援)も可能で、現在3名の方がいます。(1日3回仕事の確認をします)

ANNOUN★ concept

アンヌン(ANNOUN)の意味=「未知の世界」

バルネラブル・アーティスト

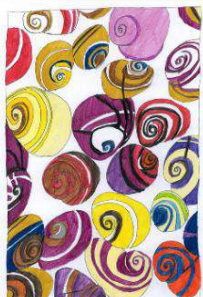
(障がいを持った人や手助けが必要な人が作りだすアート)の作品にANNOUNデザインを加え、商品化させて販売することで利用者(アーティスト)の労働環境とつくり、アーティスト達の作品を世に広め、自立・希望・生きがいを導き、未知の実現を開いていく。



☆2人の卒業生、保護者様にお話を聞かせていただきましたので、ご紹介します☆



まっり
☆茉莉さんの作品



私は^{ふちかわまっり} 瀧川茉莉です。漢字が大好きで漢検準2級を持っています。好きな色は紫です。休日はお昼頃までは大切な睡眠の時間です(笑)後はゲームをして過ごしていて、コロナが落ち着いたらたくさんお出かけしたいです。絵を描くことが幼少期から好きです。卒業して、アトリエ・アンノウンのアーティストとして絵を描くお仕事を2年です。私達アーティストが描いた絵にデザイナーさんが加わり、素敵な商品になります。午前中は課題の絵、午後からはフリーの絵を描いています。アンノウンさんに入ることを決めたくっかけは、越谷特別支援学校の高等部の時に、アトリエ・アンノウンさんの体験会に参加し、私の描いた絵が商品になったことで私も両親もびっくりし、嬉しかったのがきっかけの1つです。体験会には、両親が毎回のように連れて行ってくれました。今はいろんなアーティストさんの絵から影響を受けて、私もいろんな絵を描いてみたいと思っています。スタッフの方や家族に「上手に描けたね！」と褒められると絵を描く事が楽しくなります。後輩の皆さん、コロナ禍で大変かと思いますが、実習や体験会、見学が可能ならば、いろんな所に行ってみてくださいね！

^{まっり}茉莉さんの保護者様の言葉

娘は生後5か月から補聴器を着け、2歳で車椅子に乗りました。色々な方々にお世話になりながら早いもので社会人2年目です。高等部での現場実習や見学等で体験した事を踏まえ、アンノウンさんの代表のお話を聞かせていただき、娘の性格そして長い目で見た時に、早い段階でアトリエ・アンノウンさんで娘をお願いしたいと思いました。娘にとってとても良い環境でお仕事をさせてもらっています。この2年で絵が上達し、びっくりしています。家族みんな artist 茉莉が描く絵が大好きです。



私は^{さわさきたかゆき} 澤崎貴幸です。絵を描くことを仕事にしています。アンノウンさんでは、デザイナーさんと一緒に制作をしていて、人物の絵を描くことが得意です。日々の仕事の中で、周りの利用者の方の絵に影響を受けて、もっと上手になりたいと思うようになりました。絵を志すきっかけは越谷特別支援学校の高等部の担任の先生が美術の楽しさや絵のことに興味を持たせてくれました。今後はパソコンでイラストレーター(ソフト)を使う仕事に挑戦してみたいです！

^{たかゆき}貴幸さんの保護者様の言葉

小中学校の時は絵を描くことよりも何かを作るほうが良いかと思いましたが、高等部の担任の先生から絵を描くことの楽しさを教えてもらいました。実習や見学の時に自分の靴や植木等、色々な絵を描いているうちに息子はアンノウンさんに行きたくなりました。通所して1年半が過ぎ、絵も上手になってきました。息子に自信がついてきたのもアンノウンさんのおかげだと思っています。今後も可能性を広げてほしいと思います。

^{たかゆき}☆貴幸さんの作品



川越 生活介護施設「ゆかりの木」を訪問しました

訪問日 2021年10月7日

特定非営利活動法人ケリアプロジェクト

代表理事 山岸史津子

〒350-1103 川越市大字下赤坂 558-5

電話/ファックス 049-265-4897

Eメール kerriaproject2018@gmail.com

ホームページ Kerriaproject.com

定員 20名 障害支援区分3以上

支援方針 ご利用者様の体調や困難なことに配慮しながら、それぞれが「できること」「好きなこと」「生きがいを感じることを」ご利用者様と一緒に考えていきます。(パンフレットより)



2018年12月に川越市在住の保護者を中心にNPO法人を立ち上げ、2020年4月に生活介護施設を開設しました。「ゆかりの木」の建物は元高齢者向けの施設だった賃貸物件で、エレベーター、障害者用トイレ、浴室、広い活動スペースなど必要な設備を完備しています。川越は中核都市なので市とのやり取りで開設でき、開設に要した時間は1年ほどでした。必要な資金はクラウドファンディング^{*8}、一般寄付、融資で賄いました。

クラウドファンディングを行ったもう一つの理由は、施設の事業としてインターネットを活用していく予定であり、そのための人脈を築きたかったからです。インターネットは重度障がい者が社会と繋がっていくための重要なツールです。現在、ホームページ上でブログ記事を掲載する他、YouTube、ツイッター、インスタグラムもやっています。また、ゆかりの木では利用者ご本人だけでなく、保護者の方の社会参加・就労復帰もいろいろな形で応援しています。

さて、施設の入り口には車椅子のタイヤの汚れを落とすための人工芝、病院や半導体の工場などで使われている粘着マットが備えられていて、雑巾など使わずにタイヤの汚れを落としながら施設に入ることができます。

定員は20名ながら、現在登録者6名で、訪問させていただいた日は利用者3名、休み2名、長期休み1名でした。

現在の利用者の方で、生活介護と就職を組み合わせている人がいます。テレワークだけですと保護者の負担が大きくなり、家から出て何かやったほうが本人のモチベーションにつながります。就労と生活介護利用は同じ日にはできないので、生活介護が週3日、就労が週2日と週末テレワーク(合計20時間)となっていますが、就労の日も身体介護は不可欠で、その分、生活介護の日は「作業」としてイラスト作成などをやっています。

(この方に関して詳しくは「齊藤 龍」さんの記事をご覧ください。)
(文責 日高特別支援学校 進路指導主事 小林)



きっと夢は叶う。やりたいこと、あきらめないで。

～新しい雇用形態のパイオニアを目指して～ ゆかりの木スタッフ 齊藤 龍 (文責:澤田)

川島ひばりが丘特別支援学校の卒業生 齊藤 龍さんと保護者様にインタビューしましたのでご紹介いたします。彼は、生活介護の利用者兼スタッフ(障害者雇用)として働いています。



はじめに

私は11歳まで地域の小学校に通っていましたが、障害の進行により歩行困難になって小学校6年生から埼玉県立川島ひばりが丘特別支援学校に転校しました。ひばりが丘では、先生方にたいへんお世話になりました。仲間と過ごした日々は、とても楽しく、有意義な時間を一緒に過ごすことができました。ただ、美術が好きで得意としていたのですが、高等部に入ると美術の授業がなくなってしまったことは残念でした。

仕事について

私は川越市にある生活介護事業所「ゆかりの木」に通っています。施設の送迎車で通勤しています。生活介護の利用者でもある私ですが、実はゆかりの木職員として広告事業部に所属しています。インターネット配信のブログ記事やYouTube動画の編集を担当しています。主にiPad miniを使用し素材として使うイラスト制作などに取り組んでいます。美術が好きだった私にとっては自分の得意なことを活かした仕事をしたかったので、現場実習の事前打ち合わせ時から美術が得意であることを伝えました。そして実習では動画の編集に挑戦させてもらいました。動画をカットするタイミングや文字挿入など自分なりに工夫してできました。動画編集は初めてだったのですが、美術好きな私にとって楽しく仕事ができ、自信ができました。



1日のスケジュールは午前には編集作業、午後は身体を休めていますが、正式には就労が週2日と生活介護利用が週3日です。就労としては週20時間の障害者雇用です。iPadを自宅に持ち帰りテレワークもしています。生活介護としては、食事やトイレ介助、マッサージや理学療法士指導の下、看護師によるアンビュ訓練(肺機能の訓練)をしています。午前と午後、それぞれ20分~30分間の休憩をとります。身体を整えながら無理なく仕事に取り組んでいます。今まではコロナの影響で仕事の内容が限られていたので、今後は施設外に出張して取材するなど、動画やブログのコンテンツを充実させていきたいです。

初任給は、家族にハンカチをプレゼントしました。



Youtube 動画

ゆかりの木

検索

QRコード



趣味や休日について

私は小さい頃からウルトラマンシリーズのファンでウルトラマンフェスに行きます。ゆかりの木では、パワーポイントを使う練習を兼ねて施設内プレゼンテーションを行ないました。自由にテーマを選んでよかったのでウルトラマンについてプレゼンテーションをしました。とても好評でした。それから最近、パステル画にも挑戦して県の障害者絵画展に今年度出展する予定です。



絵画作品

最後に

後輩に向けてメッセージを送ります。「障害があるからといってあきらめないで、自分のやりたいことをきちんと主張することが大事だと思います。今は障害者の進路も多様化しているし、新しい施設もできています。何をやりたいか周囲にきちんと伝えていけばきっと誰かが耳を傾けてくれます。黙っていたら、チャンスは絶対に訪れません。」進路実現に向かって頑張ってください。

保護者様より

卒業後の進路先についての不安は親として早くからありました。いろいろな進路先を見学したり、実習に行きました。その中で、本人の希望である就労という形がとれたことは本当によかったです。最近では移動支援を使って、ヘルパーさんと2人で出掛けたり、家でテレワークをしたり、親から離れて自分で考えて行動できるようになりました。それが自立ということなのでしょう。少し寂しいですが、親も子離れしないといけないと思っています。

高等部では、卒業後の進路先を産業現場等における実習を通して決めてくのですが、肢体不自由を受け入れてくれる施設はあまり多くない中で、医療的ケアのある生徒はさらに限られた施設の中から選ばなくてはいけなくなります。重症心身障害児(者)は細かい配慮が必要で、ときには通える施設がないのではと思うこともあります。保護者は悩みながらも選択していくのですが、施設の方々も期待にこたえられなく残念に思っている実態があります。そのようなときに、少しでもより良い生活ができるようにと相談にのったり、研修実施したり、行政に要望をだしたりと活動されている団体を紹介させていただきます。

ひまわり特別支援学校 白鳥武彦

～ 最も弱いものをひとりももれなく守る ～

埼玉県重症心身障害児(者)を守る会



〒 340-0053 草加市旭町 2-5-30-305

電話 090-3498-1220

会長 中下 妙子

重症心身障害

重度の肢体不自由と重度の知的発達障害が重複した状態をいい、その状態にある子どもを重症心身障害児といいます。さらに成人した重症心身障害児を含めて重症心身障害者と定めています。

【 会の設立と運動の趣旨 】

埼玉県重症心身障害児(者)を守る会は、昭和 39 年に、全国重症心身障害児(者)を守る会が発足し「最も弱いものをひとりももれなく守る」という理念のもと力強く活動しており、埼玉県の重症心身児者を抱え持つ親たちも全国守る会の指導のもとに昭和 41 年に立ち上げました。

当時の国の福祉は、障害が重く社会復帰のできないものには及ばず、理念も政策もうすく、親が障害を持つ我が子を隠そうとさえしていたような時代でした。

今のような福祉施策やサービスがあれば、失わずにすんだ命の多さと貧しい福祉の中で、我が子の命をいつくしみ育てた沢山の親の前向きな姿勢と熱意が国や自治体を動かし、埼玉県内に於いては、国立・県立・民間の入所施設が整備され、短期入所の充実も図られました。通所施設は重症児施設併設や小規模施設、そして、幼児も通園できるようになりました。

このように、障害者の権利を守るためのいろいろな法律ができ、障害のある児者への温かな環境が整えられつつあります。何も理解できていないように思われる重症児者ですが、敏感に周りの状況を受け止めています。親は、どんな子どもでも自立してほしいと願っています。重症児者であってもその親の思いに変わりはありません。子どもの自立は、社会の中でその子らしく生き、生き抜くことと思います。

医療と福祉の連携なくしては、生きられない子どもたちにとって入所施設は最後の砦といえます。成人になっても健常者の医療の常識が通用しない子どもたちです。児者一貫の支援体制が子どものいのちと生活を守ってくれています。

どんなに世相が変わろうと、重い障害がある子どものいのちと向き合い、わずかな成長をも喜び、重症心身障害児者の福祉・医療・教育の向上と充実を願って、活動を続けてまいります。

【事業内容】

- ① 全国重症心身障害児(者)を守る会全国大会参加
- ② 全国重症心身障害児(者)を守る会 関東甲信越ブロック大会参加
- ③ 関東甲信越ブロック専門部会参加 (国立病院・重症児施設・在宅・母親部会)
- ④ 保護者研修会
- ⑤ 療育支援在宅交流セミナー
- ⑥ 保護者懇談会
- ⑦ 母親部会 (語ろう会)
- ⑧ 埼玉県・市町に要望書提出
- ⑨ 他関連障害者団体との交流



《療育支援在宅交流セミナー》

※ 会員・障害者本人・地域の支援者等と
障害を理解して貰えるよう一緒に学ぶ会。



《母親部会》語ろう会

※ 日頃の悩みや研修を受けた感想
など自由に話し合う会

要望書提出の結果

例えばこれまでに、こんなことが実現しています。

- ◎ **通所施設** = 重症児者を対象とした多機能型事業所(通所)の児者一貫体制の維持継続されました。
- ◎ **入所施設(元重症心身障害児施設)** = 重症児者の特性が配慮され、児者一貫制度恒久化されました。(前提条件あり)
- ◎ 外出・外泊時に同行援護(移動支援)が利用できるようになりました。
- ◎ 居宅訪問型児童発達支援 = 通所施設を利用するために外出が困難な重症児に居宅を訪問しての支援を受けることができるようになりました。
- ◎ 重度訪問介護の訪問先の拡大 = ヘルパーの派遣先を、これまで「居宅」に限定していたものを、「医療機関(入院)」にも拡大されました。ただし、最重度の障害者(障害支援区分6)
- ◎ 医療的ケアを要する障害児が適切な支援を受けられるよう、自治体において保健医療・福祉等の連携促進されるようになりました。

命あるパートナーとの生活 ～「介助犬」という選択～

さいたま市立さくら草特別支援学校 千々和一億



左のシンボルマークをご存知ですか？
この「ほじょ犬マーク」は、身体障害者補助犬同伴の啓発のためのマークです。「身体障害者補助犬法」が施行され、現在では公共の施設や交通機関はもちろん、デパートやスーパー、ホテル、レストランなどの民間施設でも身体障害者補助犬が同伴できるようになりました。

「補助犬？知ってるよ。盲導犬のことでしょ。」

間違いではありませんが、3分の1だけ正解です。

視覚に障害をもつ方の補助をする盲導犬、聴覚に障害をもつ方の補

助をする聴導犬、そして、肢体に障害をもつ方の補助をする介助犬の総称が補助犬です。

「介助犬？えっ？」

盲導犬ほどの認知度はまだありませんが、介助犬は身体に障害をもつ方を手助けする大切なパートナーとして、全国で少しずつ頭数が増えています。

《全 国》盲導犬861頭、介助犬60頭、聴導犬63頭

《埼玉県》盲導犬 46頭、介助犬 3頭、聴導犬 5頭

また、介助犬の訓練事業者数は全国で24団体、そのうち、介助犬を認定することができる厚生労働大臣指定法人が7団体です。（厚生労働省HPより R3/4/1現在）

☆介助犬の役割は、肢体不自由者の日常生活をサポートすること☆

介助犬が行える作業は、多岐にわたります。

主な介助動作

| | | | | |
|---|---|---|--|---|
|  |  |  |  |  |
| 物の拾い上げ | 上体おこし | 物の運搬 | ドアの開閉 | ベッドへの移動介助 |
|  |  |  |  |  |
| ペットボトルのフタを開ける | 特定の物を手に持ってくる | 割り箸を割る | 衣服や靴を脱ぐ介助 | コンビニおにぎりのパッケージを開ける |

《その他の介助動作》・階段昇降の介助 ・車いすを近くに寄せる ・歩行介助と姿勢維持
・車いすの牽引 ・緊急時の連絡手段の確保 など

※トレーニングを受けた介助犬が、上記のような介助動作のすべてができるわけではなく、ユーザーの障害内容に合わせて介助動作を専用に習得をします。

(社会福祉法人 日本介助犬福祉協会 HPより)

日本介助犬福祉協会さんを訪問し、実際に「冷蔵庫を開けてペットボトルを持ってくる」「隣の部屋から携帯電話を持ってくる」等のデモンストレーションを拝見しました。びっくり続きでしたが、中でも「床に落ちた100円玉を拾って渡す」動作は、驚きとともに感動でした！

必要であれば、縫い針を拾うことも習得可能だそうです。



【埼玉県内で介助犬と生活をされている方のお話】

実際に介助犬と生活をされている「埼玉県内にお住まい」のユーザーさんをご紹介いただけないか、と埼玉県障害者福祉推進課の方をお願いをしたところ、日本聴導犬協会で訓練を受けた介助犬と生活をされているユーザーさんをご紹介いただき、協会の東京支部がある八王子でお話をうかがうことができました。

※「日本聴導犬協会」は聴導犬はもとより介助犬の育成にも取り組まれています。詳しくは下記HPをご覧ください。



《介助犬しゅう（ゴールデンレトリバー・4歳）のユーザーさん》

「しゅうちゃん(ウォーキング・バランスドッグ *9)と生活をするようになって、家の鍵などのように厚みのない小さなものを落としてしまったときにも、慌てることなく対処ができるようになりました。もちろん夫にお願いできることも多いのですが、家族にも生活のリズムがあり、他の事をしている最中じゃないかなとか考えると、気が引けることもあるので……。」でも、介助犬のしゅうちゃんは、日々の生活そのものが、「ママの役に立ちたい！ママが何か頼んでくれると嬉しい！」ので、自分が苦手なことをお願いすることにドキドキしたり、躊躇をしてしまったりすることなく、いつでも気軽に頼めるそうです。



また、物理的な介助だけではなく、いろいろなこと（心配なことやちょっとした愚痴でも）をじっくりと聞いてくれ、「大丈夫だよママ」という顔をして優しく見つめてくれます。

「しゅうちゃんだけの特技かもしれませんが……私の足などの痛い所を頭や足で優しく揉んでくれるんです。」とも話されていました。同席していただいていた日本聴導犬協会の有馬会長によると「犬には人の弱っている所を感じる能力があり、しゅうちゃんのようなセラピー効果は、よく聞きます。」とのことでした。

「歩く時に激しい痛みを伴うことなどもあって、しゅうちゃんを迎えるまでは、どうしてもステイホームになりがちだったんです。そんな状況の中、しゅうちゃんを自宅に迎えて初めてのお散歩のとき、それまで何年も観ていなかった桜を観ることができたんです！それから連日のように、しゅうちゃんと一緒に桜を観にお散歩に行きました。でも最初は5分間歩き続けることが精いっぱい……。しゅうちゃんのためにも、あとちょっとでもと続けることで、10分間歩くことができるようになって、さらに途中で休憩をいれたりしながら15分間……とお散歩の時間が少しずつですが長くなってきました。」

しゅうちゃんとお散歩をしていると、出会った方が声をかけてくださることも多くなったそうです。介助犬しゅうちゃんは、ユーザーさんの苦手なことのお手伝いや身体的機能の向上のお手伝いはもちろんのこと、ユーザーさんと社会とのコミュニケーションの懸け橋としても活躍をしてくれているのだと思うと胸が熱くなりました。

前出の有馬会長のお言葉です。

「介助犬は、一緒にバリアを打ち砕く相棒です。」

ICTが目覚ましい発達とともに、在宅のまま世の中とつながることが容易になってきました。また、自らの可能性を広げることできるようになってきています。

そのような時代の中、介助犬という命あるパートナーとの生活をスタートしたことで、かけがえのないものを手にされた方々がいることを知りました。

人生の選択肢が増えることによって、子どもたちの未来が、より一層、心豊かなものになってくれることを願っています。

※取材協力※ ☆京王プラザホテル八王子



社会福祉法人 厚生労働大臣指定法人 **日本介助犬福祉協会**

千葉県館山市布沼1210-122 電話 0470-28-5662

HP : <http://www.kaijoken.or.jp> e-mail : info@kaijoken.or.jp

厚生労働大臣指定法人 社会福祉法人 **日本聴導犬協会**

長野県上伊那郡宮田村7030-1 電話 0265-85-4615

HP : <http://www.hearingdog.or.jp> e-mail : inf@hearingdog.or.jp





株式会社 まはろ

048-423-4043

〒351-0104 埼玉県和光市南1-16-65

FAX: 048-450-5026 担当: 滝田裕士

まはろ和光南

生活介護



★安定したリズムで生活がおくれます★



インスタグラムアカウント名 mahalo.saitama



Mail お問い合わせ先 sk1@mahalo-fukushi.com



HP 詳しくはHPから https://mahalo-fukushi.com

ご利用について

- 卒業予定者・中途退所希望の方ご利用希望受付中
週一からのご利用も可能です

見学・体験は随時受付中
お問合せはお気軽にお問い合わせください。

2021年4月オープンの新施設!!

オープンしたばかりの施設で、まはろは、すべての福祉サービスで利用者様とご家族の心に寄り添い、環境や状況にしっかりと向き合って最良のサポートを届けます。

『まはろ』の気持ちを大切に

『まはろ』とは、深い感謝を表すことば。スタッフ全員が福祉のプロであることはもちろん、周囲への感謝の気持ちを大切に、日々の仕事に向き合っています。スタッフは、助け合って乗り越えていくから、社内はいつも笑顔でいっぱいです。『まはろ』の輪をもっともっと広げたい。スタッフ一同、そんな気持ちで力を尽くしてまいります。

サービス内容

日常を、ちょっとよくする福祉サービス。毎日まはろに通っていただき、スタッフや仲間と一緒に運動機能訓練や創作活動、余暇活動などを行います。楽しい時間を過ごしながら、自宅にいと低下しがちな運動機能やコミュニケーションスキルを維持し、月次で医師と作業療法士による訓練も行います。また、専門スタッフが次のようなサービスを提供します。

- 入浴、排せつ、食事等の介助
創作活動、生産活動の提供
身体機能や生活能力の向上のために必要な援助
生活等に関する相談、助言 等

まはろの特徴

- 1 受付窓口が1つ! 在宅支援と通所支援を組み合わせるの相談・ご提案が可能!
2 総合的な支援を実施! ヘルパー、看護師など専門職を含めた総合的な支援を実施!
3 幅広い交流が可能! 放課後等デイサービスや就労B(予定)リトミック、訪問介護、給食職員など、施設内や地域等で幅広い交流が可能!



月次のイベント

- 音楽療法(リトミック)
ヘアカット(500円)等



1日のスケジュール

【身体】

- 9:15 お迎え開始 ※自主送迎の場合は、9:00~受入れ可能です。
10:00 まはろ和光南 到着
バイタルチェック
朝の会
10:30 体操、歩行訓練
余暇活動
12:00 昼食
13:00 マット運動
月課題(ちぎり絵などの制作)
静養
15:00 おやつ
15:30 帰りの会
16:00 おくり開始



※9時前のお迎え・17時以降の送りについてはご相談ください。

月謝内訳,他費用等(税込)

Table with 2 columns: 基本 (5,777円/月) and 内訳 (外出に伴う費用, 旅行積立金, 生活消耗品代, 災害用備蓄品代, 医療備品代, フェアキャスト通信費)

オプション

Table with 2 columns: オプション (内訳) and 金額 (350円/回, 1000円/回)

送迎代(所定場所以外の送迎 500円/片道)

サービス提供時間

【身体】

10:00~16:00 (※9:00) 6時間の活動

※保護者による送迎の場合のみ 9:00~受入れ可能(入浴も可能)

<変更予定(令和4年4月より)>

終了時刻が18:00まで対応可能(下記条件)
・弊社までのお迎えは保護者様のご対応。
・弊社対応は、見守り、トイレ対応が主です。

送迎エリア

無料送迎エリア

和光市、新座市、朝霞市

エリア内一部

練馬、板橋区、東久留米、志木市、さいたま市南区、戸田市、蕨市

その他エリア 応相談

施設紹介

生活介護事業所

はる
陽



生活介護事業所 陽（はる）は鴻巣市にあり、2019年4月に開設されました。

運営をしているのは、株式会社チャレジョブです。この会社は2013年に桶川市で設立して以来、就労移行支援事業から始め、放課後等デイサービスや相談支援事業、グループホームの運営、サテライトオフィスの開設・運営も手掛けています。

人工呼吸器を使用している方も含めた方から、軽度の障がいがあり就職を目指したい方まで、さまざまな方々が陽を利用しており、陽から就労移行事業所に移って就職を目指している方もいます。

《生活介護事業の内容》

障がいの程度により「実（みのり）グループ：軽作業ができる方」と、「光（ひかり）グループ：人工呼吸器を使用している方も含んだ方」の2つに分かれて活動をしています。

入浴は午前中に行います。理学療法士さんと連携して職員による機能訓練（リハビリ）や歩行訓練も行います。

実グループでは、午前中に個人作業（ものづくり、漢字・計算練習など）、午後にグループ活動（スヌーズレンや、4人くらいでゲームをしたりする）を行います。光グループも、参加可能な方は一緒にボールを投げたりするようなレクリエーションを行ったりします。

《就労支援について》

陽の利用者で就職を希望する方については、自社の就労移行・就労定着支援事業所^{*10}「チャレジョブセンター」が鴻巣、桶川、熊谷、北浦和にあり、そこと連携して生活と就労の包括的な支援を受けられるようにしています。チャレジョブセンター鴻巣内には、個室でのコンピュータ操作環境が用意されています。

サテライトオフィスが鴻巣駅周辺などに点在しています。これは、運営会社がビル内の部屋を用意し、そこに企業を誘致してオフィスを開設してもらい、企業の社員として雇用契約を結んで就労するというものです。現在15社ほどの企業と連携を図っています。



【インフォメーション】

株式会社チャレジョブ 生活介護事業所 陽（<https://www.challe-job.com/haru/>）

住所：埼玉県鴻巣市本町7-7-12 電話：048-594-8144 FAX：048-594-8145

問い合わせ担当者：施設長 鈴木雅敏

事業内容：生活介護（定員20名）

営業日時：月曜日～土曜日（土曜日は事業所カレンダーによる）9:00～16:00

受け入れ可能な障がい者：重症心身障がいの方、知的障がいの方、精神・発達障がいの方

実施可能な医療的ケア：胃ろう、経鼻経管栄養、導尿、痰の吸引

送迎：個別相談にてご対応願います。

※遠方の場合はご家族の方の送迎が必要です。

スタッフ：サービス管理責任者1名、生活支援員11名（施設長を含む）

常勤看護師2名、非常勤看護師2名

埼玉脳神経外科病院の医師が希望に応じて毎月1回来所

理学療法士が毎週1回（水曜日）来所

費用：入浴（機械浴あり：車椅子乗車の方利用可、ベッドに寝たままの方利用可）1回300円

食事（通常食、刻み食可（あらめ、細かめ）、ミキサー食可（細かい刻み食を混ぜるのも可））

通常の量で1食540円、少量なら1食410円



（文責 佐藤）

共生型
デイサービス
訪問看護
日中一時支援
介護タクシー

～まかせて安心、医療的ケア～

ライムライフ在宅ケアセンター

〒366-0054 深谷市緑ヶ丘11-33 TEL:048-579-5031
Email: rhymelife@kfz.biglobe.ne.jp 代表: 柿沼 直美



ライムライフ在宅ケアセンターは、深谷市内初の共生型デイサービス事業所として、2019年5月にオープンしました。

在宅ケアの重要性・必要性さらに関わる人たちの大変さを実感し、深谷赤十字病院在籍時より深く在宅ケアに関わって参りました。療養者さんにとって住み慣れた最高のケアを受ける場である在宅ケアは、時として介護者の負担が少なくないことも理解しております。そこで、今回のデイサービスは、療養者本人の社会活動の場・気分転換などと同等に介護者の負担軽減のお手伝いを少しでもできればと思い開設しました。

〈ライムライフ〉の《Rhyme》は、『韻を踏む』という意味です。〈ライムライフ〉という言葉には、利用者ご本人やご家族の生命・生活・人生に寄り添い、その人らしい生活を楽しむお手伝いをさせていただきたいという思いが詰まっています。

共生型デイサービス

障害者・高齢者が同じ空間・同じ時間を共有し、医療的ケアも行います
(定員 22 名)

深谷市内のご利用者様は、自宅まで送迎サービスを行っています。日中の活動は、体操・簡単なレクリエーション・映画鑑賞などで、天気の良い日は近くの公園までお散歩に行っています。看護師が常に在籍しているので、医療的ケアを必要とするご利用者様も安心して過ごすことができます。

【1日の主なスケジュール】

8:00～9:00 お家までお迎え

- ・健康チェック
- ・入浴、口腔ケア
- ・食事、手作りおやつ
- ・リハビリを考慮したレク
- ・医療的ケア（必要時）

16:00～17:00 お家にお送り



特殊浴槽で寝たまま入浴



全員そろってクリスマス会

日中一時支援事業*11

主に医療的ケアのある子どもさんたちの親御さんの介護負担を軽減します

親御さんもリフレッシュが必要です。特に、医療的ケアのある子どもたちの介護は24時間神経を使っていることと思います。ぜひ、ライムライフに預けてゆっくり自分の時間を作ってください。子どもたちにも音楽鑑賞や読み聞かせなど、有意義な時間をおくっていただきたいと思っています。

○対象地域～深谷市、熊谷市、本庄市 ○利用時間～平日・祝日の9時～16時



月1回の職員研修

介護タクシー

ストレッチャーでも乗車OK

訪問看護

「いま・すぐ・どなたにも」をモットーに行動しています



病院への通院・退院・転院はもとより、ドライブ・旅行・買い物等、利用者様の御要望に合わせて利用できます。看護師同乗で医療的ケアも可能です。

新生児から高齢者まで在宅で療養するあらゆる療養者を対象としております。健康レベルも、予防的管理から終末期のお看取りまで行い、利用者・ご家族様が望むその人らしい生き方ができるように支えたいと思っています。

- 訪問地域～深谷市及び近隣市町村
- 病状・障害の観察、健康管理
- 食事・水分・栄養管理
- 排泄ケア、清潔ケア
- リハビリテーション など



熊特卒業生を訪問看護でフォロー

(取材担当：大沢)

用語解説

*1 (P.3) サービス等利用計画

障害者総合支援法において、福祉サービス利用希望者がサービスを適切に利用できるよう、相談支援事業所が利用者のニーズ等をふまえて作成する計画書。サービスの新規利用時や更新などの際に、作成や見直し、各市町福祉課へ提出をする。

*2 (P.3) オープンキャンパス

学校(大学、専門学校等)が受験希望者などを対象にキャンパスを開放し、入試説明会や見学会、体験会などを実施するイベント。毎年、主に夏から秋にかけて、多くの学校で実施している。

*3 (P.3) AO入試

大学入試の選抜形態の一つで、大学入試改革により2021年度からは「総合型選抜」という名称が新たに用いられている。受験生からの書類、面接、論文、課題などの総合的な評価から、学習意欲・目的意識等が選抜基準として重視されている。

※大学受験は現在、大きく「一般選抜(一般入試)」「学校推薦型選抜(推薦入試)」「総合型選抜(AO入試)」に分けられているが、大学入試改革に関わって今後の動向をしっかりと見ていく必要がある。

*4 (P.3) MOS

マイクロソフト・オフィス・スペシャリストの略で、マイクロソフト社のオフィス製品(WordやExcelなど)の利用スキルを客観的に証明することができる、マイクロソフト社認定の資格。

*5 (P.3) ITパスポート

情報処理推進機構(IPA)が実施。パソコン操作やネットワークに関する基本的な知識・技術など、IT・情報処理に関する基礎的知識を証明する、経済産業省認定の国家資格。

*6 (P.4) 彩の国あんしんセーフティーネット
既存の制度では対応しきれない制度の狭間の問題や生活困窮者等の新たな福祉課題に対応するために、埼玉県内の社会福祉法人が協働して相談支援を実施。制度の紹介や支援機関との橋渡し、生活困窮者の自立支援などを行う。

*7 (P.7) 工賃

主に就労継続支援型の福祉事業所において、利用者が行った作業・生産活動に対して月ごとに支払われるお金のことを「工賃」と呼んでいる。埼玉県内の就労継続支援B型事業所の1か月の平均工賃は約15,000円(令和元年度調べ)で、事業所や仕事内容により金額には幅がある。(埼玉県内のA型の平均工賃(賃金)は月額約74,000円)

*8 (P.9) クラウドファンディング

インターネットを通じて、自分の活動や目標などを発信して、その想いに賛同・共感した人から資金を募るシステム。現在、個人・団体・企業等の様々なプロジェクトで幅広く活用されている。

*9 (P.14) ウォーキング・バランスドッグ

歩行の際にバランスを取り、ユーザーさんの安全を保つ介助犬のこと。

*10 (P.16) 就労定着支援事業

2018年に新設された障害者総合支援法に基づくサービス。就労移行支援事業所等を利用して一般企業へ就労をした人の職場定着支援、就労の継続を図る。利用期間は最大3年で、その後は地域の障害者就労支援センター等へ引き継ぐ。

*11 (P.17) 日中一時支援事業

地域生活支援事業に位置づくサービスの一つで、日中における活動の場を確保し、見守り等を行うとともに、家族の一時的な休息も目的としている。放課後等デイサービスと違い、学校卒業後も継続して利用できるサービスである。

埼玉県内肢体不自由特別支援学校 12 校
高等部卒業生の進路状況

| 年度 項目 | H30 | R1 | R2 |
|----------|-----|-----|----|
| 企業就労 | 3 | 1 | 3 |
| 訓練 | 1 | 1 | 0 |
| 訓練等給付 | 14 | 15 | 10 |
| 介護給付 | 69 | 86 | 75 |
| 地活等 | 1 | 1 | 0 |
| 進学 | 8 | 1 | 1 |
| 在宅 | 4 | 8 | 1 |
| 計 | 100 | 113 | 90 |

Tokyo 2020 パラリンピックを経て、多くの人が障害者への関心や理解を深めることができたのではないかと期待しているところですが、コロナ禍中の学校教育、とりわけ外部との連携が欠かせない進路指導にとっては課題の多い状況であったと思います。また、働き方改革の推進、ICT 環境の急速な整備、自然環境の変化や災害への危惧など、医療的ケア児とその保護者への支援に関する法律の施行、世の中の変化につながる要素が多々あり、先を見通すことが困難な状況にあって、この『進路のしおり』は肢体不自由特別支援学校における進路指導の道標としてより大きな役割を担うものと考えます。子どもたちの進路を考える多くの皆様方の一助としていただければ幸いです。

最後に、編集に携わった皆さんには心中より感謝申し上げます。そして、その編集過程において深められた知見については、それぞれの場所でより多くの方に広げてくださると期待しています。

(さくら草特別支援学校長 石橋 慎一郎)

『進路のしおり28号』が完成しました。

昨年度は取材等に伺うことができず、特別号としてまとめましたが、今年度は各方面へ足を運び、直接お話を伺い冊子にまとめることができました。改めて、人と人が直接会うことの大切さ、ありがたさ、そして、あたたかさを実感することができた年となりました。今号のテーマ「未来に向かって」には、人と人とのあたたかいつながりが綿々と続き、広がっていくようにとの思いを込めました。

製作に当たりましては多くの方々にご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

記事に対するお問い合わせ等がございましたら、右記にある各校の編集委員までご連絡ください。

(編集委員 千々和一億)

【訓練】

国立職業リハビリテーションセンター、東京障害者職業能力開発校などの職業訓練機関

【訓練等給付】

就労移行支援、就労継続支援 A 型、就労継続支援 B 型、自立訓練（機能・生活訓練）などの日中活動

【介護給付】

生活介護、療養介護の日中活動や施設入所

【地域活動支援センター（地活）等】

心身障害者地域デイケア施設も含む

『進路のしおり』第28号

発行日 2022年3月9日

<編集・発行>

◇ 埼玉県高等学校進路指導研究会特別支援教育部会
肢体不自由特別支援学校小委員会

◇ 埼玉県肢体不自由特別支援学校進路指導研究会

高橋 盛也 県立和光特別支援学校
048-465-9770

堀 喜代司 県立宮代特別支援学校
0480-35-2432

小林 将典 県立日高特別支援学校
042-985-4391

澤田 秀一 県立川島ひばりが丘特別支援学校
049-297-7753

大沢 恵子 県立熊谷特別支援学校
048-532-3689

佐藤 勉 県立秩父特別支援学校
0494-24-1361

杉田 聡 県立越谷特別支援学校
048-975-2111

白鳥 武彦 さいたま市立ひまわり特別支援学校
048-622-5631

倉持 通子 富士見市立富士見特別支援学校
049-253-2820

島村 隆博 県立蓮田特別支援学校
048-769-3191

古谷 匡 県立所沢おおぞら特別支援学校
04-2951-1102

千々和一億 さいたま市立さくら草特別支援学校
048-712-0395

※「障害」「障がい」「障碍」の表記について

文中では、「障害」「障がい」「障碍」と表記がされておりますが、本誌では作者の意向を尊重し、そのままに編集いたしました。

<印刷>



埼玉県社会福祉事業団
あさか向陽園

〒351-0016 埼玉県朝霞市青葉台 1-10-6
TEL 048-466-1411 FAX 048-467-4127